

共生・公正・創造



ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

“テロリストに乗っ取られたJR東日本の真実”

『週刊現代 - JR東日本革マル浸透問題告発 - 』連載第2回

元運転士が驚愕の実名告発!

『週刊現代』が、JR東日本の革マル浸透問題を連載記事で告発した。本紙は驚くべきこの事実をシリーズで紹介する。(オンライン有料購読にて入手・・・一部要約抜粋)

<週刊現代2006年7月24日発売号>

常軌を逸した吊し上げが始まった

「'99年9月11日の夕方でした。乗務を終えた私はロッカー室で、JR東労組の三鷹電車区分会長から『聞きたいことがある。訓練室に来てくれ』と呼び出しを受けたのです」(佐藤氏)
「訓練室には分会長の他に、前分会長、八王子地本の役員ら4人が待っていました。彼らは、私に1枚の写真を突きつけてきた。それは数日前、新潟支社時代に所属していた旧『鉄労』の仲間と、秋川溪谷で『芋煮会』を開いた時の写真でした。その会は、東京の旧鉄労出身の仲間が、OBも交えて交流しようという趣旨で開いた、“同窓会”のようなものでした。しかし、それに、JR東労組から脱退した『JRグリーンユニオン』のメンバーが出席していたことから、JR東労組は、私が参加したことを、『組織破壊行為だ』と問題にしたんです」(佐藤氏)・・・「あの日以降、JR東労組による私に対する“尋問”が始まりました。連日、三鷹電車区分会の分会長や書記長に取り囲まれ、『誰が参加したんだ?』、『何を話した?』と吊るし上げられたのです」(佐藤氏) JR東労組三鷹電車区分会幹部らによる佐藤氏の「吊るし上げ」は、その後1ヵ月以上も続いた。

彼らはなぜこれほどまで執拗に、佐藤氏を追い詰めるのか。JR東労組を脱退した元組合員が解説する。「JR東労組は、組合員が他労組の組合員と接触することを極端に嫌う。特に組織の中核をなす運転士には厳しいのです。ただ、佐藤さんにとって旧鉄労のメンバーは、所属組合は違っても、昔の仲間。その仲間と旧交を温めることのどこが悪いのでしょうか。『組織防衛』を最優先し、『組織破壊者』を許さないというJR東労組の体質は、それを指導している革マル派の体質と瓜二つなんです」

佐藤氏がJR東労組から連日吊るし上げを受けていた1ヵ月以上の間、三鷹電車区の管理職は見て見ぬふりをしていたという。「もちろん、三鷹電車区の実質的な現場責任者である副区長にも相談しました。しかし『何で鉄労なんかと(芋煮会に)行ったんだ』と、まともに取り合ってはくれなかった。JR東労組に逆らえば、彼らの立場も危うくなりますから。そのうち、JR東労組の目的が、私に組合を辞めさせることだと分かってきましたが、私は『脱退届だけは絶対出さない』と心に決めていました。JR東労組にいないと、この会社ではまともに生きていけないからです。JR東労組を脱退することで、会社から干され、運転業務からも降ろされるのが怖かった。新潟から上京し、やっとの思いで運転士になれたのですから」(佐藤氏)

しかしJR東労組は、その追及の手を、けっして緩めようとはしなかった。「私の忍耐は1ヵ月が限界でした。10月15日、最後は20人くらいに囲まれたなかで、『ここに判子を押せ』と無理やり脱退届に捺印させられました。分会長らは『自ら押したんだからな!』と私に念を押し、一緒に私を取り囲んでいた組合員たちに対して、嬉しそうに脱退届を掲げていました」(佐藤氏) JR東労組を脱退させられた佐藤氏は、自分の身を守るため、JRグリーンユニオンに加入した。だが、それが「佐藤いじめ」に、拍車をかけることになった。